

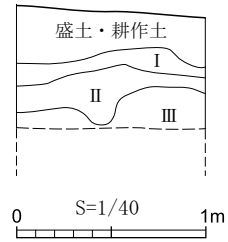
2 遺構と遺物

当調査地区では古代の竪穴建物跡 2 棟と柵跡 1 条, 土坑 1 基, 溝 1 条, その他の遺構 3 基を検出した。遺構確認面は第IV層である。

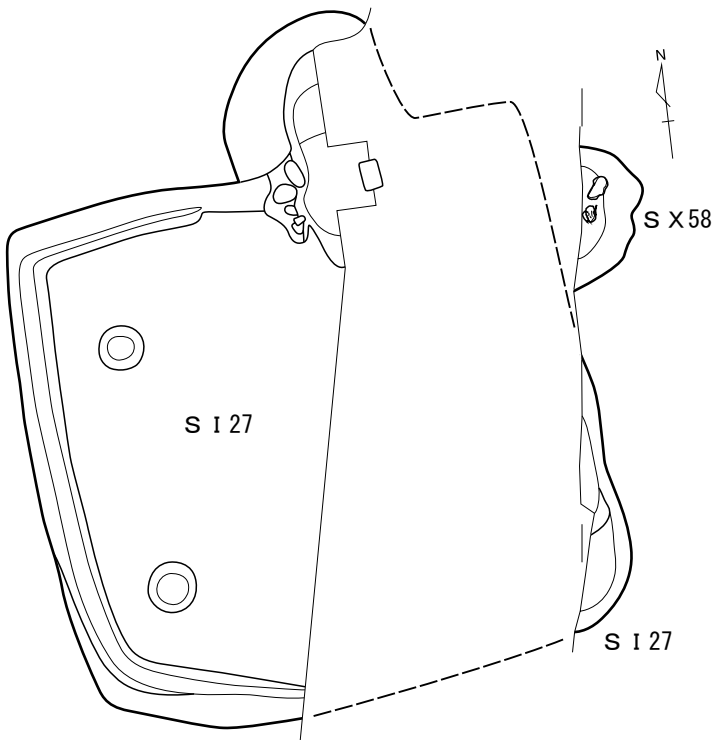
竪穴建物跡

M 51 - S I 27 西側が調査地区外である。検出部分は竪穴建物跡の南東角部から東壁の南半分にあたる。規模は, 南北 1.4 m, 東西 0.2 m, 深さ 0.20 m を測る。西側隣接地区 1694 次 (『報告 60』) では竪穴建物跡の西側部分と北竈が検出されている。1694 次とあわせた規模は, 南北 2.90 × 東西 2.95 m と判明した。遺物は土師器片 6 点, 須恵器片 4 点が出土した。いずれも小片で, 図化に至らなかった。1694 次調査地区の出土遺物から 9 世紀末葉 ~ 10 世紀前半の所産と考えられる。

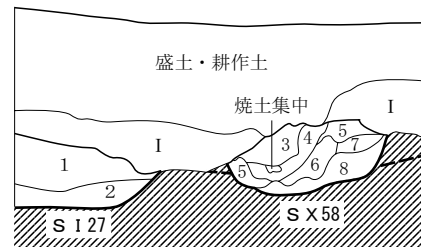
59.80m



第 1868-3 図 柱状模式図



59.80m



S=1/40 0 1m

M51-S I 27 土層説明

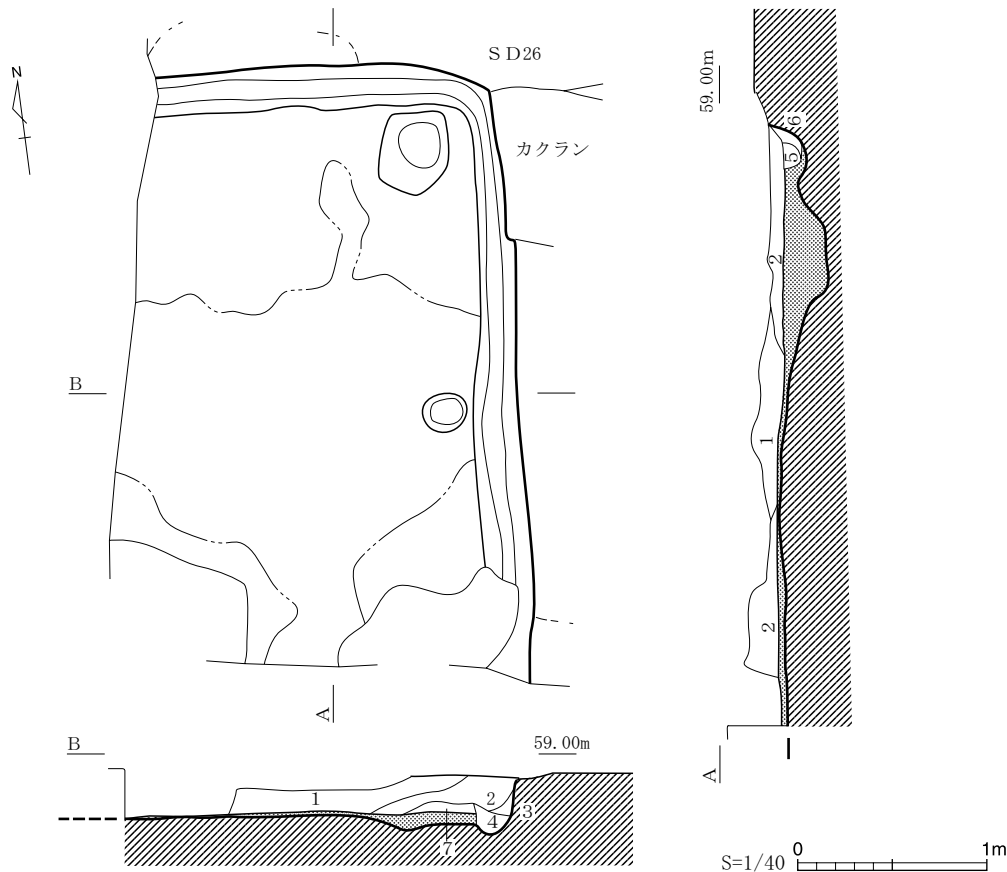
1. 暗褐色土 II 層土を主体に III 層土が少量まだらに混入する。ローム粒小粒を微量, 白色粘土粒小粒を微量, 炭化物を微量含む。粘性あり, しまりやや強。
2. 暗褐色土 II 層土を主体に III 層土を少量, ローム土を中量まだらに含む。白色粘土粒中 ~ 小粒微量, 炭化物微量含む。粘性やや強。しまりやや強。覆土下層, 周溝部分の可能性あり。

M51-S X 58 土層説明

3. 暗褐色土 II 層土を主体に III 層土を少量まだらに含む。焼土粒中 ~ 小粒微量, 白色粘土粒小粒微量, 炭化物を微量含む。粘性やや強。しまりあり。
4. 暗褐色土 II 層土を主体に III 層土を中量まだらに含む。焼土が少量, 部分的に集中して認められる。白色粘土小粒微量。炭化物微量含む。粘性あり。しまりやや弱。
5. 暗褐色土 II 層土を主体に III 層土を中量まだらに含む。白色粘土粒小 ~ 中粒少量, ローム粒小粒微量, 炭化物微量含む。粘性やや強, しまりあり。
6. 暗褐色土 5 と同質だが, 白色粘土粒中粒をやや多く含む。焼土粒小 ~ 中粒微量含む。粘性やや強, しまりやや強。
7. 暗褐色土 III 層を主体に II 層土が少量まだらに混入する。白色粘土粒小粒微量含む。粘性やや弱, しまりあり。
8. 暗褐色土 III 層土を主体に II 層土が微量, ローム土が少量まだらに混入する。粘性あり, しまりやや強。

第 1868-4 図 M 51 - S I 27 ・ S X 58 平面・断面図

S I 27 ※1694 次と併せて計測		竈位	置	北壁中央東寄り。
グリッド	M 51(10・11, 7・8) 区。	用材	材	白色砂質粘土, 切石, 石。
プラン・主軸	方形? N-6°-W。	中央部軸長	長	118(132) cm。
規	南北 2.55(2.90) × 東西 2.75(2.95) m。	壁掘り込み	み	U字形に 68 cm 以上。
壁	高さ最大 40 cm。斜めに立ち上がる。	床掘り込み	み	楕円形に 16 cm。
ピット	3 個。	奥壁	壁	35 ~ 75° (掘り方は 55 ~ 75°) で立ち上がる。
周溝	西半部は廻る。幅 11 ~ 16, 深さ 5 ~ 13 cm。	煙道	道	不明。
床	全面貼り床。周辺部は軟弱。	両袖部内幅	幅	不明。
掘り方	全体的に浅く掘り込むが、周辺部がやや深い。	内方張り出し	出	不明・左 20 cm。
竪穴の備考	大半が 1694 次調査(『報告 60』)に位置する。	火竈の備考	考	建物床面よりやや低い。



M51-S I 34 土層説明

1. 暗褐色土 ローム粒中～小粒少量, 白色粘土粒小粒微量, 焼土粒中～小粒微量, 炭化物微量含む。粘性やや強。しまりやや強。
2. 暗褐色土 ローム粒小粒微量, 白色粘土粒小粒微量, 炭化物微量含む。粘性やや強。しまりやや強。
3. 暗褐色土 ローム粒少量まだらに含む, ローム粒中粒を微量, 炭化物を微量含む。粘性あり。しまりあり。周溝覆土。
4. 暗褐色土 ローム土を中量まだらに含む。ローム粒小粒少量含む。粘性やや強。しまりやや弱。周溝覆土。
5. 暗褐色土 ローム粒小粒を少量含む。炭化物微量含む。粘性やや強。しまりやや強。周溝覆土。
6. 暗褐色土 ローム土を中量まだらに含む。粘性やや強。しまりやや強。周溝覆土。
7. 暗褐色土 白色粘土粒小粒微量含む。粘性やや強。しまりやや強。掘り方埋土。

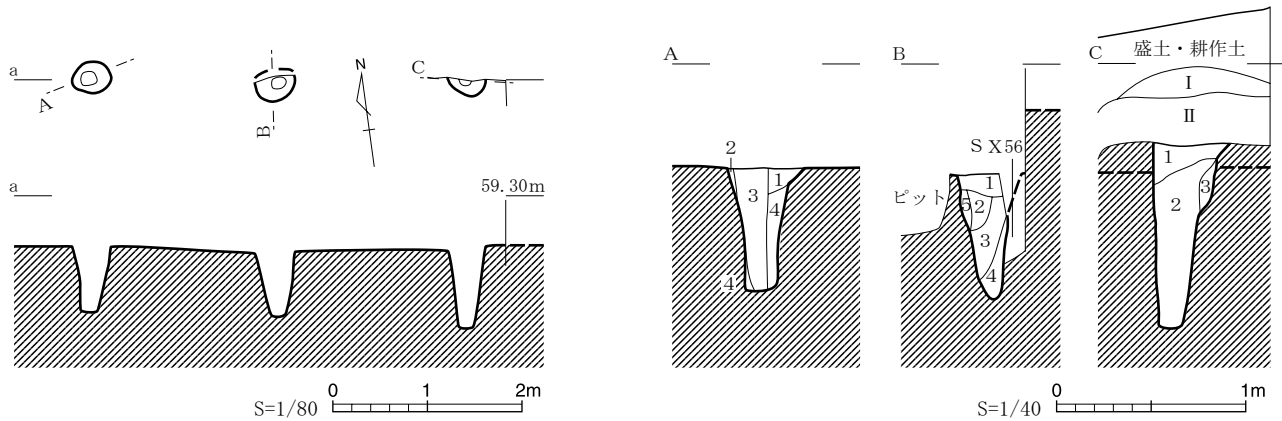
S I 34		竈位	置	不明。
グリッド	M 51(11 ~ 12, 5 ~ 6) 区。	用材	材	
プラン・主軸	方形? N-5°-E。	中央部軸長	長	
規	南北 3.10(3.20) 以上 × 東西 2.15(2.25) 以上。	壁掘り込み	み	
壁	高さ最大 27 cm。ほぼ垂直に立ち上がる。	床掘り込み	み	
ピット	2 基。	奥壁	壁	
周溝	西壁・南壁を除き廻る。幅 8 ~ 12・深さ 7 ~ 10 cm。	煙道	道	
床	中央部は素掘り, 周辺部は貼り床状。	両袖部内幅	幅	
掘り方	周辺部を浅く平坦に掘り込む。	内方張り出し	出	
竪穴の備考	南部, 西部は調査区外。S D 26 に切られる。	火竈の備考	考	

第 1868-5 図 M 51-S I 34 平面・断面図

M51-S I 34 西側及び南側が調査区外に及ぶ。検出した規模は東西1.75m～2.25m, 南北3.2m, 深さ0.2m～0.4mを測る。床はほぼ平坦で, 壁はほぼ垂直に立ち上がる。周溝は検出した範囲の壁沿いに巡る。ピットが2基検出された。共に浅い窪み状である。規模は, P 1が長径0.23m, 短径0.20m, 深さ0.09mを測り, P 2が長径0.47m, 短径0.30m, 深さ0.15mを測る。柱穴はない。遺物は古代の土師器・甕(01, 02), 須恵器・坏(03～06)が出土している。砥石(07)はピット2から出土した。(第1868-9図) 出土遺物から8世紀末葉～9世紀初頭の所産と考えられる。

柵跡

M51-SA2 東西方向の柵跡である。西からSA2-P1, SA2-P2, SA2-P3の3基の柱穴を検出した。SA2-P2はM51-SX57を切り, SX56に切られる。SA2-P3は北側が調査地区外である。規模は, SA2-P1が直径約0.35～0.40m, 深さ0.65m, SA2-P2が直径約0.43m, 深さ0.70m, SA2-P3が直径約0.40m, 深さ0.82mを測る。柱間の距離は2.0mである。遺物は出土していない。暗褐色土を主体とする覆土の様相から奈良・平安時代の所産と考えられる。



M51-SA2 土層説明

P 1

1. 暗褐色土 Ⅲ層土を主体にⅡ層土が中量まだらに混入する。ローム粒小粒少量含む。粘性あり。しまりあり。
2. 暗褐色土 Ⅲ層土を主体にⅡ層土を微量まだらに含む。ローム粒小粒を微量含む。
3. 暗褐色土 Ⅱ層土を主体にⅢ層土が少量, ローム土少量がまだらに混入する。粘性あり, しまりやや弱。
4. 暗褐色土 Ⅱ層土を主体にⅢ層土を微量まだらに含む。ローム粒小粒を微量含む。粘性あり, しまりやや強。

P 2

1. 暗褐色土 Ⅱ層土を主体にⅢ層土を中量まだらに含む。白色粘土粒小粒微量含む。粘性やや強。しまりやや強。
2. 暗褐色土 Ⅱ層土を主体にⅢ層土を少量, ローム土を少量まだらに, ローム粒小粒微量, 炭化物微量含む。粘性あり, しまりやや弱。
3. 暗褐色土 Ⅱ層土を主体にⅢ層土を微量まだらに含む。ローム粒小粒を微量含む。粘性あり。しまりやや強。
4. 暗褐色土 Ⅱ層土を主体にⅢ層土を少量, ローム土を中量まだらに含む。ローム粒小粒を少量含む。粘性あり, しまりやや弱い。
5. 暗褐色土 Ⅱ層土を主体にⅢ層土を中量まだらに含む。粘性やや強。しまりあり。

P 3

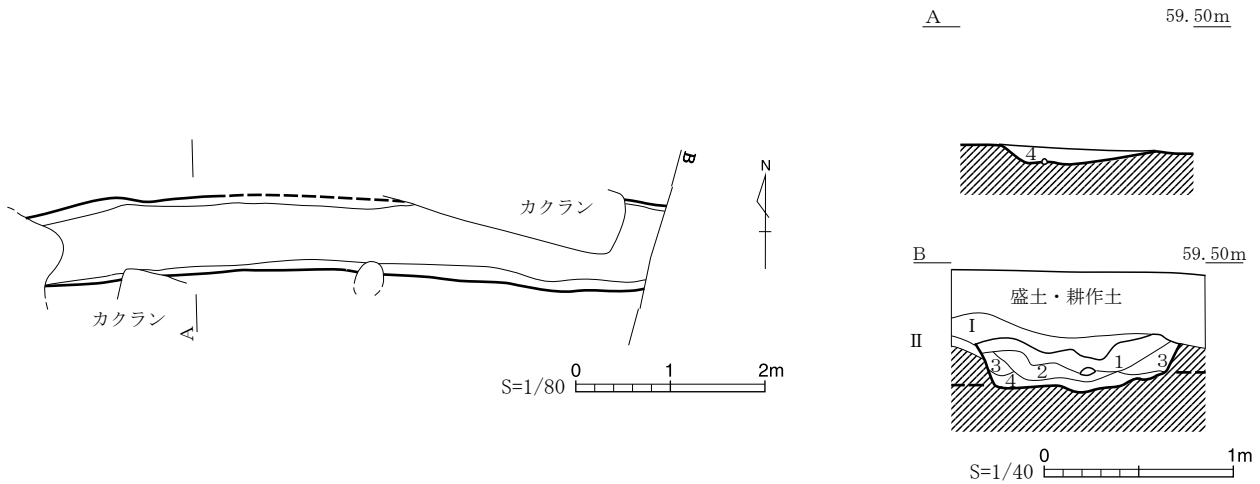
1. 暗褐色土 Ⅱ層土を主体にⅢ層土を多量まだらに含む。ローム粒小粒, 炭化物, 焼土粒小粒を微量含む。粘性やや強。しまりやや弱。
2. 暗褐色土 Ⅱ層土を主体にⅢ層土を中量, ローム土をまだらに少量, 白色粘土粒小粒を微量, ローム粒小粒少量, 炭化物微量を含む。粘性あり。しまりやや弱。
3. 暗褐色土 Ⅱ層土を主体にⅢ層土をまだらに多量, 白色粘土粒小粒を微量, ローム粒小粒を微量含む。粘性あり。しまりやや強。

遺構No.	形態・方位	規模(m)	柱穴形態・規模(長軸×短軸×深さ)(cm)
SA2	東西 E-9°-S	2間(2.00m等間)	楕円形・類円形。40～44×30～35×60～85

第1868-6図 M51-SA2 平面・断面図

溝

M 51 - S D 26 東西方向の溝で、東側は調査区外に延びる。西側は、M 51- S I 34 の上層を切り、攪乱に切られる。1694 次調査地区のM 51 - S D 24 と接続すると考えられる。検出規模は長さ 6.5 m、上面幅 0.95 ~ 0.82 m、底面幅 0.65 ~ 0.80 m、深さ 0.08 ~ 0.18 m を測る。断面形は逆台形状を呈する。遺物は土師器片 18 点、須恵器片 13 点が出土したが、いずれも小片であり、図化に至らなかった。暗褐色土を主体とする覆土の様相と出土遺物から奈良・平安時代の所産と考えられる。



M51 - S D 26 土層説明

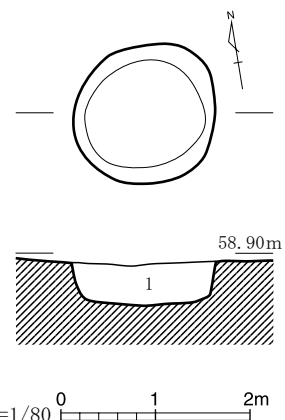
1. 暗褐色土 II 層土を主体に III 層土が微量まだらに混入する。ローム粒小粒微量を含む。粘性やや弱。しまりやや弱。
2. 暗褐色土 II 層土を主体に III 層土を少量まだらに含む。焼土粒小粒、炭化物を微量含む。粘性あり。しまりやや強。
3. 暗褐色土 II 層土を主体に III 層土が中、ほぼ均質に混合する。ローム粒小粒微量含む。粘性やや強。しまりやや強。
4. 暗褐色土 III 層土を主体に II 層土を少量まだらに含む。ローム粒小粒を微量含む。粘性あり。しまりやや弱。

S D 26	
グリッド	M 51(11 ~ 13, 6)
偏向	ほぼ真東西。
断面形態	逆台形。
規模	長さ 6.5 m 以上 × 幅 80 cm × 深さ 10 cm
備考	調査地区外に延びる。西側で S I 34, 東側でピットを切る。

第 1868-7 図 M 51 - S D 26 平面・断面図

土坑

M 51 - S K 36 円形土坑である。規模は直径 1.5 m × 1.45 m、深さ 0.45 m を測る。遺物は土師器片 112 点、須恵器片 104 点、かわらけ片 1 点、陶器片 1 点が出土した。そのうち、須恵器皿 1 点 (8) と陶器片口鉢 1 点 (9) を図化した (第 1868-9 図)。暗褐色土を主体とする覆土の様相と出土遺物から奈良・平安時代の所産と考えられる。



第 1868-8 図 M 51 - S K 36 平面・断面図

M51 - S K 36 土層説明

1. 暗褐色土 黄褐色土少量 ローム粒小粒 ~ 中粒少量 炭化物微量 締まり普通 粘性強い

その他の遺構

3 基検出した。いずれも調査区北端でごく一部の検出であったため、詳細は不明である。

M 51 - S X 56 検出した規模は南北 0.18 m、東西 2.35 m、深さ 0.34 m ~ 0.45 m を測る。遺物は土師器片 7 点、須恵器片 1 点が出土した。いずれも小片で、図化には至ら

なかった。暗褐色土を主体とする覆土の様相と出土遺物から奈良・平安時代の竪穴建物跡の南壁の可能性も考えられる。

M 51 - S X 57 M 51 - S A 2 P 2 及び M 51 - S X 56 に切られる。楕円形を呈するものと思われる。規模は南北 0.35 m 以上×0.35 m, 検出面からの深さは 0.2 m で、壁面の確認では 0.4 m を測る。暗褐色土を主体とする覆土の様相と出土遺物から奈良・平安時代の所産と考えられる。遺物は出土していない。

M 51 - S X 58 半円形であり、西側は調査地区外に及ぶ。底面で礫 3 点と土器類が検出された。規模は南北 0.77 m, 東西 0.30 m, 壁断面で深さ 0.39 m を測る。覆土は暗褐色土を主体とし、焼土粒、白色粘土粒が混入する。遺物は土師器片 7 点、須恵器片 4 点が出土した。いずれも小片で、図化には至らなかった。調査時には M 51 - S I 27 の東竈と想定したが、土壌の堆積状況を再検討し、竈の上層を攪乱する別遺構と判断した。出土遺物と覆土の様相から奈良・平安時代以降の所産と考えられる。

遺構No.	グリッド	平面形・規模 (cm)	備考
S X 56	M 51(12・13, 8)	不明, 長軸 235 × 短軸 18 以上 × 深さ 45	S A 2 P 2 に切られ, S X 57 を切る。
S X 57	M 51(13, 8)	楕円形, 径 35 以上 × 深さ 40	S A 2 P 2, S X 56 に切られる。
S X 58	M 51(13 ~ 14, 7・8)	円形, 径 77 × 深さ 39	西側は調査地区外に位置する。

ピット

5 基検出された。規模は長径 0.35 m ~ 0.5 m, 短径 0.3 m ~ 0.4 m, 深さ 0.2 m ~ 0.35 m を測る。P 102 から須恵器片 2 点, P 103 から土師器片 2 点, 須恵器片 1 点, P 105 から土師器片 6 点, 須恵器片 1 点, P 106 から土師器片 1 点, P 108 から縄文土器 1 点それぞれ検出された。いずれも小片で、図化に至らなかった。黒褐色土~暗褐色土を覆土の主体とする覆土の様相から、いずれも奈良・平安時代のピットと考えられる。

表土からの出土遺物

表土から縄文土器 1 点, 土師器 64 点, 須恵器 36 点が出土した。そのうち土師器甕 (12), 縄文土器 (13) を図化した。(第 1868-9 図)

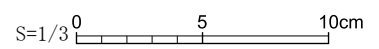
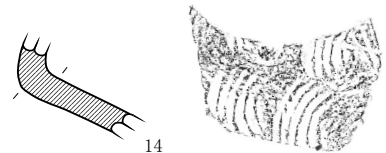
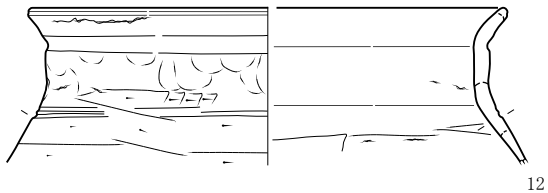
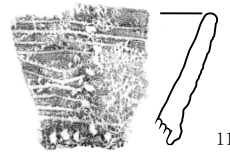
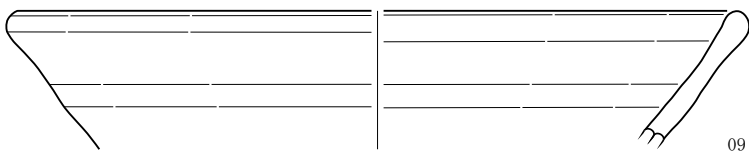
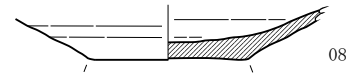
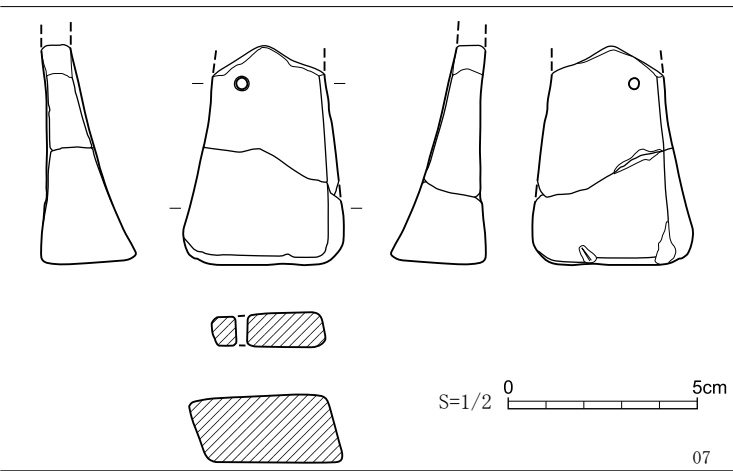
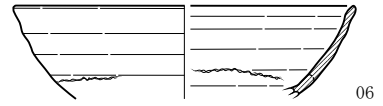
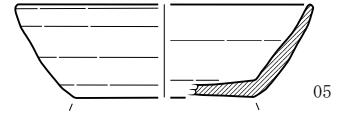
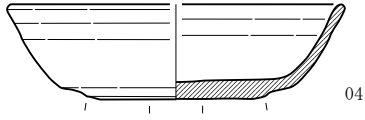
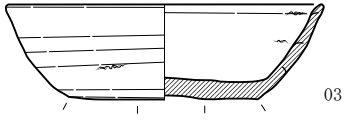
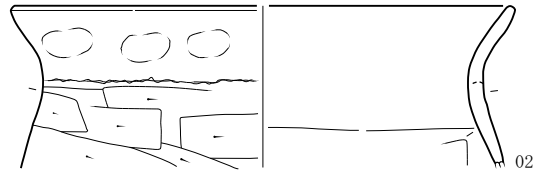
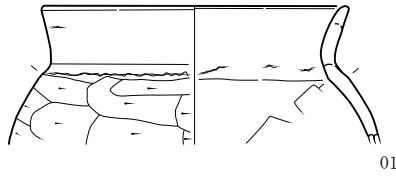
まとめ

当調査地区は、武蔵国府跡の西方約 1.2 km に位置する。武蔵国府関連遺跡の高倉・美好町地域内に所在し、高倉古墳群の分布範囲の北限付近にあたる。当調査地区の東方 180 m に東山道武蔵路が、西方約 20 m には鎌倉街道上道の推定ラインが通る。

当調査地区では、奈良・平安時代の竪穴建物跡 2 棟, 柵跡 1 条, 土坑 1 基, 溝 1 条, その他の遺構 3 基が検出された。

当調査地区西側に隣接する 1694 次調査では、8 世紀前半~10 世紀前半の竪穴建物跡が確認されている。当調査地区と 1694 次調査に跨って確認された竪穴建物跡 M 51 - S I 27 は、M 51 - S I 26 と接する。当調査地区で確認された M 51 - S I 34 の 3 棟が近接位置にあることが判明した。

東山道武蔵路西側の竪穴建物跡の分布状況は、古墳の合間の空間に密集していることが確認されている。今回の調査成果は、東山道武蔵路西側における高倉古墳群の境界線付近での竪穴建物跡の分布状況を示す資料である。



第 1868-9 図 出土遺物

12.1868 次調査報告

No.	遺構	器種	口径・器高・底径	特徴
01	M 51 - S I 34・攪乱	土師器・台付甕	11.9・(5.5)・-	明赤褐色，黒褐色。口縁部 3/4 弱，胴上部 1/8 残存。覆土。
02	M 51 - S I 34・攪乱	土師器・甕	19.6・(6.4)・-	橙色。口縁部 1/4 弱，胴上部 1/8 残存。覆土。
03	M 51 - S I 34	須恵器・坏	12.4・3.8・7.5	灰色，底部にぶい褐色，橙色。口縁部 5/8，体部 3/4 弱，底部残存。白色物資やや多量。重ね焼き。覆土。
04	M 51 - S I 34	須恵器・坏	13.1・3.8・7.1	口縁部灰褐色，体・底部褐灰色。口縁部 1/8，体部 1/4 強，底部 1/2 強残存。白色物資やや多量。重ね焼き。覆土。
05	M 51 - S I 34	須恵器・坏	11.6・3.7・7.1	灰色，口縁部外面暗灰色。1/8 残存。白色物資少量。重ね焼き，外面に火だすき，口縁部外面一部に灰赤色の自然釉。覆土。
06	M 51 - S I 34	須恵器・坏	13.4・(3.7)・-	灰色。3/8 残存。白色物資少量。体下部内面に補修痕。重ね焼き。体部外面一部に煤。覆土。
07	M 51 - S I 34	石製品・砥石	現存長 5.8，現存幅 3.0～4.3，現存厚 0.8～2.5 cm。1/2 強残存。流紋岩。側面は 4 面使用面。割れた後に穿孔。ピット。	
08	M 51 - S K 36	須恵器・皿	-・(2.2)・6.3	橙色。体下部 1/2 弱，底部 1/2 強残存。覆土。
09	M 51 - S K 36	陶器・鉢	28.6・(5.5)・-	灰白色。口縁部少量残存。中世陶器。渥美産。I 類。無釉。覆土。
10	M 51 - ピット	須恵器・坏	-・(0.7)・6.2	灰色。底部残存。白色物資少量。覆土。
11	M 51 - ピット	縄文土器・深鉢	-・(5.2)・-	橙色，内面明赤褐色。口縁部少量残存。縄文前期後半。諸磯 b 式。半截竹管による刺突文を縦・横位に施文。区画内に半截竹管の平行・ジグザグの沈線を施文。No. 13 と同一物と考えられる。覆土。
12	M 51 - 表土	土師器・甕	18.7・(6.3)・-	明赤褐色。口縁・肩部 1/4 強，頸部 3/8 残存。
13	M 51 - 表土	縄文土器・深鉢	-・(5.2)・-	明赤褐色。少量残存。内面剥離。縄文前期後半。諸磯 b 式。半截竹管による刺突文を横位に施文。上・下に半截竹管による平行沈線を施文。No. 11 と同一物と考えられる。
14	M 51 - 攪乱	須恵器・甕	-・(4.3)・-	灰色。頸・肩部少量残存。



第 1869-10 図
遺構検出状況全景（北）



第 1868-11 図
調査地区全景（北）



第 1868-12 図 M 51 - S I
27・S X 58 床面検出状況（東）



第 1868-13 図 M 51 - S I 34
床面検出状況（東）



第 1868-14 図
M 51 - S A 2 完掘全景（東）



第 1868-15 図
M 51 - S D 26 完掘全景 (西)



第 1868-16 図
M 51 - S K 36 全景 (南)



第 1868-17 図
M 51 - S X 58 断面 (東)



M 51 - S I 34(01)



M 51 - S I 34(02)



M 51 - S I 34(03)



M 51 - S I 34(04)



M 51 - S I 34(05)



M 51 - S I 34(06)



M 51 - S I 34(07)



M 51 - S K 36(08)



M 51 - S K 36(09)



M 51 - ピット (10)



M 51 - ピット (11)



M 51 - 表土 (12)



M 51 - 表土 (13)



M 51 - 表土 (14)

第 1868-18 図 出土遺物